

Topic 01 オープンキャンパスでのキャンパスツアー&スタンプラリー

8月5日(土)6日(日)の2日間、夏季オープンキャンパスが開催されました。地域交流研究センターでは、毎年恒例のキャンパスツアーに加え、今年度から新たなイベントとしてムササビ(ムササビ・リス・ネズミ・モグラの頭文字)スタンプラリーを行いました。誰でも参加できるよう、当日配布されるパンフレットの裏を台紙とし、ラリーを達成された方には記念品として缶バッジまたはポストカードをお渡ししました。スタンプはセンターのオリジナルデザインとなり、制作はセンター教員の青木宏希先生が担当されました。キャンパスツアー・スタンプラリーともに参加者は多く、みなさまより好評をいただくことができました。



Topic 02 オープンアーカイブの活用『奥隆行コレクション』

地域交流研究センターでは、奥隆行氏が生前、収集されていた都留市にまつわる一連の写真コレクションをデジタル化し、保存、管理をしています。デジタル化した資料は、『奥隆行写真コレクション』と名付け、誰もが利用しやすいように2冊にまとめたものです。令和5年度は関東大震災から100年という節目ということもあり、新聞やニュースに関東大震災当時の都留市の写真を提供し取り上げられました。今後もさまざまな機会が『奥隆行写真コレクション』が活用できるよう広報活動等に取り組んでいきたいと思っております。



Topic 03 ムササビの赤ちゃんが誕生しました

都留文科大学のキャンパスにはムササビが生息しています。私たちはこの森を「ムササビの森」と呼んでいます。今年、8月18日、この森に設置してある巣箱でムササビの赤ちゃんが2匹生まれました。さっそく名前を募集し選考した結果、「むむ」と「びび」に決まりました。右の写真は、赤ちゃんが誕生したときの巣箱の映像です。



お知らせ



地域交流研究センターでは、オープンキャンパスや多くの活動が開催されています。参加していただいたみなさまに、形に残る思い出を持ち帰っていただきたいという目的で、エコバッグや絵葉書、缶バッジなどさまざまなグッズを用意しています。地域交流研究センターと参加者をつなぐものとして、これからもセンター独自の魅力のあるグッズを制作していきます。地域交流研究センターの窓口にありますので気軽にいらしてください

地域交流研究センターのイベント情報

後期もイベント盛りだくさん!みなさんの参加をお待ちしています。

- 10/14 (土):子ども公開講座「手作り石鹸やキャンドルを作ろう」
- 10/19 (木):市民公開講座「第1回 星空観察会」
- 10/28 (土):市民公開講座「湧水さんぽ」
- 10/21 (土):第3回ムササビ観察会(留学生対象)
- 10/28 (土):第4回ムササビ観察会
- 10/27 (金):地域交流研究フォーラム
- 10/24 (火)~11/5 (日):東京の病弱教育の主人公たち作品展
- 11/16 (木):市民公開講座「第2回 星空観察会」
- 11/18 (土):つるぶんカフェ



地域交流研究フォーラム



市民公開講座「湧水さんぽ」



市民公開講座「星空観察会」

TSURU FIELD MUSEUM NEWS

都留文科大学
地域交流研究センター
Research Center for Community Collaborations



Aimi, W

ヤマネ *Glirulus japonicus* (Japanese dormouse)

本州、四国、九州に分布する日本固有種で、国指定天然記念物です。樹上で木の葉や昆虫などを食べます。コケなどで球形の巣をつくり、木の隙間などで冬眠します。本学のキャンパス周辺の森にも生息しています。

vol. **05**
2023 October



地域交流研究センター

〒402-8555 山梨県都留市市原3-8-1 4号館1階
Tel.0554-43-4341 (内線606) Mail.cjouryu@tsuru.ac.jp



都留文科大学 WEB



都留文科大学 twitter



地域交流研究センター twitter

FIELD MUSEUM NEWS 第5号

【発行】◎都留文科大学地域交流研究センター 【発行日】2023年10月23日

【センター委員】鈴木健大/北垣憲仁/日向良和/別宮有紀子/内山美恵子/福島万紀/山森美穂/吉岡卓/野中潤/青木宏希/山本直紀/堤英俊/佐藤比呂二/山本剛/平和香子/富永貴公/吉田恵理/邊見信/原和久/佐野夢加【事務局】谷内正美/杉本涼/渡部美由紀/松本菜々香 表紙絵:渡邊愛美

地域交流研究センターのロゴは、人と人、人と自然の結びつきをイメージして制作しました

都留フィールド・ミュージアム

地域交流研究センターでは、地域そのものを博物館(ミュージアム)に見立て、身近な自然や文化に親しみ、じかに触れ、学びあう「都留フィールド・ミュージアム」構想を推進しています。人間探究を掲げる都留文科大学にふさわしいこのような取り組みを受け継ぎ、発展させていくことを目的に地域交流研究センターが発足しました。



地域交流研究センター

地域交流研究センターは、都留文科大学と地域をつなぐさまざまな活動と研究に取り組むための拠点です。地域は、人びとが生まれ育ち、自然とかわりながら暮らし、文化と歴史を刻みつけている現場です。そこには、自然・人間・社会のあり方を問いなおす手がかりがあります。地域交流研究センターは、活動を通して、地域全体を博物館(ミュージアム)ととらえる「都留フィールド・ミュージアム」構想を推進していきます。

地域交流研究センター

地域交流研究センターには、「自然共生研究部門」、「共生教育研究部門」、「まちづくり研究部門」、「グローバル交流研究部門」があります。この4つの部門では、私たちのくらしや自然との共生のありかたなど地域の現代的な課題に即して、自然科学や人文・社会科学といった領域を総合して取り組んでいます。それとともに、地域を担う次代の主体を育成することを目的としたさまざまな教育・研究活動を行なっています。気軽にお問い合わせください。

自然共生研究部門

本学のキャンパスには様々な動植物が生息しています。これらの生きものがどこで観られるのかを紹介する「キャンパス生きものMap」プロジェクトが令和5年4月にスタートしました。学内に参加を呼び掛けるポスターを貼ったところ、多くの学生が参加したいと声をあげてくれました。現在15名の学生と一緒にキャンパス内の動植物の調査や報告会を毎月おこなっています。生きものを通じた人と人との交流は、学科の垣根を越えて温かい共感の輪を育んでいます。

※右写真：地域社会学科2年生の寺澤香美さんが報告してくれたキミガヨラン（君が代蘭）。和名の命名者は牧野富太郎氏。1号館と2号館の間の庭園に分布。



共生教育研究部門

● 地域情報教育分野

地域情報教育分野では令和5年度前期に、都留市教育委員会がおこなっている市民大学「シリウスカレッジ」と連携して、シゴトUPコース「情報活用とメディアリテラシー」の講義を6号館でおこないました。インターネットの情報を見極めるためには「比較」をおこなうことが重要と話しました。その後市民が利用できる情報源の一つとして大学図書館を案内しました。今後も市民と学生がインターネットとうまく付き合っていくためのさまざまな講座を開きたいと思っています。



本学附属図書館の館内の様子

● 地域インフラ教育分野

キャリアデザインワークは、思春期からのキャリア支援プログラムとして、地域の生き辛さを抱えた若者を対象に取り組んでいます。現在、高校生から社会人まで12名が参加し、ワークの活動内容は大学生が企画運営を行っています。11月には地域の事業所にご協力いただき、職場体験も予定しています。10月27日（金）、地域交流研究フォーラムを開催し、ドキュメンタリー映画「夕やけ子どもクラブ」を上映します。また、10月24日（火）～11月5日（日）に「病弱教育の主人公たち作品展」を開催します。多くの方にご覧いただければと思います。



7月13日（土）第3回キャリアデザインワーク

● 地域美術教育分野

地域の教育機関とともに造形表現活動をおこないます。本学学生の皆さんと地域の子どもたちが造形表現を通して交流し、互いに想像力を高め合います。参加者全員が造形表現を楽しむことのできる活動にするためには、活動の計画段階でアイデアを出し合ったり、模擬活動をしたりする事前準備は欠かせません。さまざまな内容の活動を計画して楽しい活動をめざします。



液体粘度を使った造形活動の作品。テーマは「かわ」

● 社会教育分野

昨年度より始まった「手作りキャンドル・サシェ・ソープ作り教室」が、都留市教育委員会のサポートの下、今年度も10月14日に開催されました。32名の小学生が、日々の生活の中で心をホッと一息できる優しい香りのサシェやボタニカルキャンドル、肌にやさしい無添加の手作り石鹸の製作を、大学生や保護者の方と一緒に、和気藹々と取り組みました。参加した小学生からは、もっと沢山作りたい、来年もまた参加したい等の声をいただきました。



10月14日（土）子ども公開講座「手作り石鹸やキャンドルを作る」

まちづくり研究部門

まちづくり研究部門では、富士急行線谷村町駅舎を活用し、小学生から高校生までの放課後の居場所づくり「ぶらっとはうす」を2018年から実施しています。夏休みには「宿題教室」や「ぶち文化祭」も開催しました。また、都留市・富士急行と連携し、市内に新しい観光を創出する観光ゼミにも取り組んでおり、2023年度は市内サイクリングコースの創出に取り組んでいます。



「ぶらっとはうす」の様子

見出し横のロゴについて：ニホンリスがクルミの実を食べた痕をモチーフにしています。こうした食べ痕も動物のくらしを知る重要な手掛かりになります。

グローバル交流研究部門

都留の自然や文化の豊かさを本学の留学生にも知ってもらうため、交換留学生を対象とする「自然観察会」を10月21日（土）に開催します。今回の観察会では、ムササビの生態について学習した後、観察地点までバスで移動します。運よくムササビの滑空をみることができるとは？ 事前説明や観察後の振り返り、また留学生への通訳も本学の学生たちが中心となって行います。留学生たちと日本の学生たちのよい交流の機会になればと思います。



令和4年11月12日に開催した交換留学生を対象としたムササビ観察会の様子

地域交流研究センターのそのほかの事業

● 地域貢献活動

【地域貢献活動分野】

「市民公開講座」、「子ども公開講座」、「名画座（映画上映）」など、大学教員がもつ専門分野を活かしながら、大人から子どもまでを対象とした幅広い講座を数多く開催しています。

【子ども公開講座】

令和5年7月2日「ロンドンオリンピック選手と走ろう！ 佐野夢加のかけっこ教室」

参加者 11名

令和5年7月29日「陶芸教室」 参加者 12名

令和5年8月10日「人工知能（AI）を使ってポスターを作ろう」 参加者 12名

令和5年8月16日「光の不思議 万華鏡ブラック・ウォールに挑戦しよう」 参加者 13名

【市民公開講座】

令和5年7月22日「第1回ムササビ観察会」 参加者 16名

令和5年7月23日「佐野夢加 親子かけっこ教室」 参加者 14組 30名

令和5年7月29日「英語で遊ぼう」 参加者 15名

令和5年7月29日「第2回ムササビ観察会」 参加者 17名



7月29日（土）市民公開講座「英語であそぼう！」



7月2日（日）子ども公開講座「佐野夢加のかけっこ教室」



7月29日（土）市民公開講座「第2回ムササビ観察会」

● 地域交流研究センターサテライト

地域交流研究センターサテライトは、都留市まちづくり交流センター1階にあり、大学と地域の人々をつなぐ架け橋のような窓口になります。前期には地域の団体から文大生と音楽をとおしての交流依頼があり、文大マンドリンクラブの演奏会をTHMC棟で開催することができました。演奏会では都留市についての座談会も行われ、学生と地域の方との交流ができました。



8月8日（火）文大生との交流会「マンドリン演奏会」

● 出版・広報活動

地域交流研究センターでは、さまざまな活動の成果を出版・広報する活動にも力を入れています。現在、令和4年度の活動を記録した『地域交流研究年報』第19号の発行の準備をしています。今年度は、高校生を含む幅広い年齢層を対象に地域交流研究センターの取組を紹介するニュースレター『FIELD MUSEUM NEWS』4号を7月に発行しました。こうした出版物は、本学のホームページでもご覧いただけます。



● ボランティア事業部

前期は4月～7月「文大ボランティアひろば」を開催しました。募集中のボランティア紹介、ボランティアに参加した学生の体験発表、小人数のグループに分かれて自己紹介や動機などを話し、参加者同士の交流をする場となりました。また、外部よりゲストをお呼びし、ボランティア活動現場の生の声をお聞きすることができる貴重な体験となりました。



7月13日（木）文大ボランティアひろば